

## 知事広聴「平太さんと語ろう」記録

【開催日時】平成24年7月14日（土）

13時30分～15時45分

【会場】焼津市大井川公民館

### 1 出席者

- ・ 発言者 焼津市・吉田町において様々な分野で活躍されている方  
6名（男性2名、女性4名）
- ・ 傍聴者 168名

### 2 発言意見

	項目	頁
発言者 1	県内の豊かな食材を使用した食育への取組 販売力活性化のための支援	3
2	商工会の取組の紹介 地場産業への支援	4
3	米飯給食の推進 ヨガを通じた子育て支援	8
4	T P P 新規参入についての質問 知事への期待	10
5	焼津の魅力を市民目線で情報発信	16
6	健康ダンス普及への取組	17
4	T P P 新規参入についての質問（追加）	23
3	米飯給食の推進（追加）	25
6	中学校体育教師への女性の採用要望	28
傍聴者 1	知事広聴の運営方法 富士山静岡空港公営化に反対	29
2	浜岡原発反対	30
3	思いやりある県として震災がれき受け入れ賛成	31
4	津波ジャケットの開発	32

<知事挨拶>

今日は焼津の清水市長さん、また吉田の田村町長さん、そして焼津市民の皆様、吉田町民の皆様、暑い中ようこそお越しくださいました。本年度最初の広聴会でございます。広く皆様の意見を、皆様の市町の代表の方々からお聞きして、それを県政に生かすという平成24年度の最初のものでございます。これまでに17回、22の市町の方々とうこうした広聴会を開いてまいりました。

今回は移動知事室というのも始めまして、最初の移動知事室の場所が今年度ここでございます。広く志太榛原を歩くということで、一昨日から藤枝の庁舎を拠点にいたし、焼津や、さらに昨日は千頭の方におりまして、あちらの森林を見たりしてきました。1日目、一昨日には焼津の中学校に参りまして、焼津中学校、平成23年度の読書をよくしている中学生として県から表彰されているところでございます。その中学生の1年生から3年生の諸君の読書についてのお話を聞くことができまして、また僕の経験も語ることができました。焼津の中学校はすばらしい。すぐそばに焼津神社があつて、その影響かなと思ったり、あるいは清水町長さんの御意向かなと、あるいは多分御両親、地元の人たちのそういう地域の方々の教育に対する姿勢が中学生にあらわれているなというふう感じた次第です。

こちらに来る前に吉田町の住吉小学校に行つてまいりました。大変清潔な感じのする明るい小学校で、階段にも九九が上手に添えられていまして、また踊り場には防災、あるいは飛行場がすぐそばにございますから、その防災や飛行場を通して、どこの地域と結ばれているかということが自然にわかるように工夫がされておりました。何よりも3.11以後、津波について大変皆様方御心配ですが、吉田町長の田村さん、一生懸命なさっておられて、道路に歩道橋のようなああいふ避難タワーのようなものをつくろうという非常にユニークな考えも出されておられます。そうした中でこの住吉小学校ではそれぞれの階に今海拔標高何メートルのところかというふうに書かれていて、屋上にはフェンスが、海風や潮風によつても腐らないようにステンレスでできて、またそこから落ちないような工夫もされています。そして屋上にはたしか44の1だったか、34の1というか、とっても大きな数字で番号が書かれているのです。

それはもしものときに、空からヘリコプターや何かでパイロットがその固有名詞が言えなくても、その数字を言えば、すぐそれがどこかということ特定できるように、小学校の屋上にはわかりやすく数字が書かれていました。皆様方も御存じない方がいるかもしれませんが、仮に避難される場合には、その数字が上から見られるようにするということが、

実は自分の位置を知らせる方法になります。そうしたことがなされていて、その現場を見て校長先生の御案内をいただきまして、そしてこちらに来たというわけでございます。

今日は焼津の、それからまた吉田の代表の方々から、それぞれの町、市に対して抱えていらっしゃる問題、あるいはこれから取り組もうとされている問題等々について、しっかりと意見を承りまして、これを皆様方の生活が幸せになるように生かしてまいるというふうにしたいと存じますので、2時間、少し長丁場でございますけれども、よろしくお付き合いのほどをお願い申し上げます。ありがとうございました。

#### < 発言者 1 >

焼津市で水産練り製品を製造しております。よろしくお願い申し上げます。

さて、私は、一昨年12月に東京のホテルで開催されました「ふじのくに」農産物食品加工品の展示会に出店させていただきましたが、その折に感じたことは、静岡県はこんなにたくさんのいい食材に恵まれているんだということでした。職業柄、私ども水産練り製品、あるいは干物類、加工品というのは、よく理解しているつもりだったのですが、その会場では農産物、要するに海の幸ばかりでなく山の幸も本当にこんなにたくさん、静岡は食に恵まれているのだと、改めて我が静岡県を誇りに思い、感謝に思った次第です。

そのときには恥ずかしながら東京の会場でそれを感じることができました。県民でありながら知らなかったと、芽キャベツもこんなになってできていて、初めて芽キャベツがなっているところの展示があったものですから、それにも感動して、思わず写メを撮って送ってしまいました。そんな中で、余りにも県民なのだけど、知らないことが多過ぎるんだなということを実感いたしました。

戻ってからは私たちがこんなに海と山の幸に恵まれて、食材もこんなに豊かなのだから、それを県民、私たち自身が認識を持って、その恵みに感謝して過ごせるような食生活を送れないだろうかということを思った次第です。

そこで私はたまたま食品のメーカーに従事しておりますので、その食というものを考えたときに、やはり食は命の源なのだ。だから私たちはその命をいただく、こんなに豊かな産物、食材というものをそのままいただくものであったり、加工するものであったり、それを県民として本当に感謝を持っていただくような教育の中での取り込み方、あるいは学校給食ですよね、あるいは食育という中で、地域でも、もちろん基本は家庭だと思っておりますけれども、そういったものを活性化することによって、自分たちが地域のものを知り、その恵みを感謝して、またそれを心と体を育成することに使えないだろうかという思いが

次第に強まってきたわけです。

私たちのお隣の長野県は、教育県としても有名ですが、教育委員会に従事されていた方は、学校給食を米飯と魚を主食にすることによって、荒廃した学校の内容ですね、登校拒否の方とか、ほかに問題を抱えている方のそこを改善して、最終的には学力も改善して、いい結果を残されているということをお聞きしています。ですから私たちはこんなに豊かに自然な農産物、水産物に恵まれているので、ぜひその辺を県として強化していただいて、県民、私たちの子どもたち、あるいは高齢者も含めての心と体の健康に生かしていただくことはできないだろうかという思いを強く持っております。

私事で恐縮ですが、私どもの会社も少しでも家庭でできる範囲の調味料でつくった天然のもので、素材を生かしたもので、いいものをつくることによって、お客様にそれを提供することによって、食を通して社会に貢献するという事で、商品の開発も進めております。基本は家庭の食事であり、あるいは学校の給食であったり、あるいはその他でいただく本当にいろいろな会合での食であっても、静岡県の豊かな食材を使い、それを生かして、またその命をいただくということの尊さも受け止めることができる、感謝をすることができる子どもたち、あるいは私たちも含めてですけど、そういったシステムを何か構築していただければと思います。

最後に、私どもも焼津のさかなセンターにも直売店を出店しておりますけれども、震災以降、なかなか販売力が活性化されておりません。その中でもう少し皆様がお買い物をしていただいて喜んでいただけるもの、これはさかなセンターの理事会ともども考えて、おもてなしの心を大切にするという社員教育も進めておりますけれども、県、あるいはもちろん清水市長もいろいろな面で御協力いただいておりますが、そういった点でも県の方で何かサポートしていただければ、大変うれしく存じます。

< 発言者 2 >

大井川商工会では地元のPRのために物産品を開発してPRに使ってきました。平成16年より町経済5団体と協力して、農家に小麦をつくっていただいたものがあります。その小麦を醤油にしまして、この醤油の名前も一般公募しまして、「うめえぞこれは」という変わったネーミングをつけていただきまして、醤油を平成18年の4月に販売しました。この醤油は非常に口当たりがよく好評で、今までずっとリピーターも多くなりました。

そのため、これをもっと活用しようということで、この小麦を使ったそうめん、それからこの小麦を使った醤油を使ってつゆをつくるということで、何品か開発してきました。

この開発に当たって「うめえぞ委員会」という商工会の組織で行っている運動をやってきました。経営革新法等、地元の事業のサポート役として我々商工会もトマトを使ったマドレーヌ「トマレーヌ」というようなもの、それから醤油を使った「醤油羊羹」と、いろいろサポートをしてきました。この醤油につきましては、近隣のスーパーや富士山静岡空港でも売っております。

もっとこのPRをできないだろうかということで、大井川の恵（めぐみ）シャツというものもつくって、地元のシラス、そしてサクラエビ、これをデザインしてシャツをつくりました。川勝知事にも購入をしていただきましてありがとうございます。着ていただいたのをテレビで見させていただきました。また、この地域で採れるサクラエビとシラスがありますので、大井川地区の16店舗がサクラエビを使った新メニューを開発し、サクラエビグルメマップも作成しました。ぜひ活用して、この地域のサクラエビをぜひ食べていただきたいと思います。

この地域は、昔はウナギの養殖も盛んだったのですが、非常に衰退しました。細々とやっていたのですが、またこのシラスが採れなくなって、余計にウナギという産業が今衰退しております。ニュースでも御存じかと思いますがけれども、この地域で私ども蒲焼きのたれも製造させてもらっているのですが、非常に苦しい状態です。これは吉田町の方も同じかと思いますが、こういった点にもぜひ皆さんの協力や、県からの協力もお願いをしたいと思います。

<発言者1、発言者2に対する知事のコメント>

お二人とも食材に関わるお話をしていただきました。どのくらい静岡県に食材があるのかということについては、正確には県庁の役人も3年前までは知らなかったんですね。どこにどういうものができるというのは皆知っていますけれども、その数がどれくらいかということとは知らなかったのです。

食糧についてはカロリーベースで自給率を今40%ですけれども、それを45%から50%に上げようという、国のカロリーベースにおける食糧自給率というそれが非常に大きく喧伝されましたので、そのことに大変忠実な静岡県もカロリーベースで何とかそれを上げるということに熱心だったのです。しかしですね、やはりバランスよくいろんなものを食べるということが大事なので、食材の数を勘定してみたんですよ。

そしたら何と農産物だけで167あったわけです。私はこの数が47都道府県の中でどのくらいの地位にあるのか。農業県として北海道や東北、あるいは関東でも茨城県のようなと

ころがございます。あるいは鹿児島であるとか、九州も農業県ですから。そしたら何と日本で1位だったんですね。167種類の農産物をつくる場所はほかにありません。

それでちょっと今度は海産物をということで、何しろ505キロの海岸線がございます。そして日本で一番深い駿河湾もございますし、遠州灘もありますし、遠洋漁業、あるいは沖合、あるいはその沿岸の漁場も豊穡の海です。どのぐらいのものができると、合計しますと何と219の食材がありました。これ日本一なんです。

東京の展示場でそういう静岡県の食材に発言者1さんが初めて接せられて、何と静岡県で食材が多いのだろうと。実は静岡県は食材の王国です。このことは幾ら自慢しても、日本一なのですから、富士山と一緒に。山は富士、食は静岡日本一と、こういうわけがあります。

これを食育に、命の源だから大事にしていこうということで、長野県のことを言われました。長野県というのは海に面してないでしょう。だから大したことないのです。そこでできることは我々ができるということですね。ですから、これからこの食材を使って、正しい食といえますか、いわゆるファーストフードでカロリーだけが高ければいいというのではなくて、旬のものをいただくというふうにすることが正しい食になる。命をいただくことになるのではないかと思います。

もう既に162キロの新東名が開通いたしまして、これは前倒しで人知れず開通したのは御存じですか。もう前宣伝ものすごく、平成24年における最高のイベントで、3.11のあの悲劇を吹っ飛ばそうということで、NHKのレポーターや民放のレポーターが、キャッキャ、キャッキャと634メートルのスカイツリーの上に登って、5月22日オープンなどとやかましく言っていたでしょう。

ところが静岡県を走る162キロの新東名は来年できるはずだったわけです。それが今年になり、しかも初夏だと言われていたのが、この春になりました。しかも開通日はどしゃ降りです。だれも知らない。首都圏は全然できていません。愛知県に至っては半分しかできていません。ここしかできてない。ところが、そのSAとPAに皆様が来るとおいしい食材があるので、それを食べるに、あるいは買い物に来られるということで、1カ月で593万人来られました。割と正確に覚えているでしょう。

これはどうしてかといいますと、5月22日にスカイツリーがオープンしまして1カ月たちました。6月の21日まで1カ月で581万人だったのです。それで自慢しているのです、向こうは581万人も来たと。うちは593万人です。焼津市の人口ぐらいの数が上回ったわけです。

それはどうしてかという食の魅力によります。これはやっぱり3.11以後、食の安全ということが本当に身に沁みて、それからまたいろいろと添加物や何かで、やっぱり子どもたちに安全で安心なものを食べさせたいという親御さんの気持ちもありまして、食育の効果もございまして、これを一番生かせるのはどこかという静岡県です。こちらには海の幸、山の幸がございまして、なかんずく海の幸におきまして、吉田町、そして焼津、ここは世界に知られているところで、日本中に知られているところです。焼津の名前は世界に知られていますから、そういうことから発言者1さんが言われたことは、これから我々全体で一緒になってやっていくべきことだというふうに思いました。

だから食については発言者1さん、そして先ほど発言者2さんの方は醤油だと。日本の食べ物は醤油抜きに考えられますか。考えられないです。江戸時代って鎖国をしていましたでしょう。どうして鎖国ができたかという、味付けは全部醤油で済んだからです。フランス料理でも、中国料理でも、あるいはインド料理でもアラビア料理でも、皆コショウ、香辛料を使うのです。コショウ、香辛料は自分のところの国で自給できないものですから、それを東南アジアとか、あちらこちらから輸入しなくちゃいけなかった。

ところが日本人は醤油を発明した。醤油で全部済ませるものですから、ですから醤油さえあれば、あとは何でも料理できるというくらい重要なものです。きょうはその醤油の話をして、何でしたっけ、「うめえぞこれは醤油」という。うめえら醤油というわけです。「うめえぞこれは醤油」を発明された。やっぱり発明心といいますか、新しいものをつくっていくというのは、今日もここに魚河岸シャツを着ていらして、これは焼津の魚河岸シャツ、これは有名ですね。

それで今日私は大井川の恵のシャツを着てこようと思ったのですが、それがあれば非公式の日常で、公式のところではいけないと杓子定規の県庁の役人が言うものから、これでしょうがないからサムライ・シャツを着てきた。サムライ・シャツというのは、大井川の恵シャツにはポケットがありますか。あるけど、恐らく深さはそんなに。（「これは焼津シャツです」）

焼津でしょう。ちょっとお立ちくださいますか。その紳士の胸ポケット見てください。そうそう、扇子が落ち着かないでしょう。これを見てください。落ちている。これは実はボタンが前に出ていますね。このボタンはこちら中になっているのですよ。そしてここに扇子用の深いポケットがあるわけです。それでこれがすぼんと落ちるようになっているわけです。だから扇子のおさまりぐあいといい。これはサムライ・シャツというぐらいですから、侍と、それから扇子で、この扇子は開けましてこうやりますと節電になりますね。

扇子を使ってセンスを上げるというわけです。

そんなわけで、今日は清水市長さんがそれを着ていただいています。ちょっとまだ地味で、まだもう一つというところがあります。ちょっと高いということもありまして、やっぱり魚河岸シャツとか、大井川の恵になるまで、これから少し頑張らなくちゃいけません。これは遠州の織物、こちらはこの志太榛原の地域のもうだんだん名物になってきています。夏は暑いですから、もう少し気楽に、しかしそれなりの礼儀正しい着方をこれから工夫していきたいということでございます。

そういうことで衣食共に地産地消で、そしてここは日本で最も恵まれているところだという意識を持っていただいて、そういう文化を発信していくというそういう提言をされたのだということで大変共感をいたしました。ありがとうございました。

#### <発言者3>

今日は会場に女性の方も大変多く来てくださっていますけれども、今日私がここに上がらせていただいているのは、やはり女性の代表として、そして子育て真っただ中の母親代表として上がらせているのだと思っております。食育ヨガサークルができて5年となります。きょうスタッフの者が子連れで参加させていただいておりまして、この辺が少し子どもの声がにぎやかですけれども、私たちいつも子育てをしながら活動させていただいております。

子どもを授かってから特に願っておりますのは、子どもたちの未来のため、よりよい地域、静岡県、そして日本、そして世界をつくり上げるのが、大人になった私たちの役目だと思っております。大変大それたことを言っているとか、政治家でもないのにとと思われるかもしれませんが、「母は強し」という言葉があるとおり、母親はずうずうしく、そしてたくましくなるものだと、私のことながらに自分がびっくりしております。

私ども、食育、そしてヨガサークルということで、今知事さんからお話いただきまして、本当に食育に御興味を持っていらっしゃることを今大変感動しております。正直、スーパーマーケットに行きまして、子どもがおやつを食べたいと言ったとき、子どもに食べさせたいおやつを見つけるのにすごく苦労します。キャラクターのものは、裏を見れば、へえ、こんなものが入っているんだということで、子どもにこんな赤い色とか黄色とか、そんなものは食べさせたくないなと思うと、正直、そこで一番長い買い物時間を費やすことは、しょっちゅうございます。

私たち子育てしております、1日3食食事をつくる母親の立場で、先ほども発言者1



さんがおっしゃいましたけれども、キッチンがまさに食育の原点だということを心得ております。1日3食食べることができる世界の国々の中で、こんなに飽食に恵まれている日本なのに、すごく医療費が高いという事実を大変慎重に受け止めております。私、食育指導士を取らせていただきまして、今食育講演を幼稚園、保育園、そして子育てサロンさんなどでさせていただく機会が増えてまいりました。

また、自発的に一昨年1月は焼津市公民館で、長野県上田市の教育長をなさいました大塚貢先生をお呼びしたことがございます。このときは200人の会場が230人の定員になってしまって、モニタールームもつくらせていただきました。私たちのようなサークル活動のただの主婦でも、230人の方を集めることができたことを大変驚いております。

そして、私たち「母は強し」ですので、各行政を回らせていただきまして、実は焼津市長さんにもお会いしたことがあります。市長室を訪ねまして、島田市長、焼津市長、そして藤枝市長さんにお会いして、この講演会に来てくださいとお願いしました。焼津市に関しては、すぐ次の週末が選挙だったものですから、市長さんは来れなくて、焼津市保健センターの方が来ていただきました。そして藤枝市は教育長さんが来ていただきました。そして島田市は島田市長さんが足を運んでくださいました。皆さんに最後コメントをいただきまして、大変すばらしい会になりました。

行政が食育を私たちにさせていただくということよりも、一般の私たちが行政を動かすことができるのだということをも身をもって体験させていただきました。やはり行政に頼ってはいない現場の声が届くことが少ないのかもしれない。男性の方で行政の方だったら、やっぱりそのうちの奥さんが食を守っているわけですから、私たちのような一般の者だから何も恐くなく、バックグラウンドがないものですから、何でも言えるというところも利用させていただきまして、そのときは行政の方に来ていただいたこともございます。本当に実践できる食育講話ということで、各地でさせていただいております。

知事さんもさっきおっしゃいましたけれども、安心安全なものを増やしていただきたい。そして三島市は実はもう米飯給食100%なんですね。正直、そのことについても給食センターを回らせていただきました。こんなに田んぼが多いのに、なぜ小麦粉をたくさん食べるような国になってしまったのだろうか、本当に思います。田植えをしても、こんなに田んぼが周りにあるのに、うどん、パスタ、そしてパンですね、給食にも大変多いです。

2. 5割がその3個を占めます、小麦種類ですね。

でも、やはりこの国に産まれたからにはごはんを食べさせたいというのが私の子どもへの希望でございます。子どもにごはんを食べさせると、おかずをいっぱいつくらないとい

けないです。パンだったらサラダとスープでいいかもしれないですよ。でもやはりその苦勞をしながらでも、やはり米飯給食を目指して、そして給食ではお茶も出ないこともあるそうですね。こんなにお茶がたくさんある静岡県ですから、やはり牛乳だけではなくて、お茶を振る舞うことを徹底していただきたいと思います。牛乳アレルギーの子も大変増えておりますので、その辺も知事さんをお願いしていいのかわかりませんが、母親としてはお願いしたいところがございます。

そしてもう一つはヨガの方をさせていただいておりますが、これは心の休養ということで、子連れでできるヨガをさせていただいております。子育て支援の方で多分取り上げて、私がここに呼ばれたと思うのですが、だれにも迷惑をかけず、赤ちゃんを連れてレッスンに来て、その辺に寝っ転がらせながら自分がリラックスできれば、自分にごほうびを与えると、お母さんというのは自然と子どもに優しくなれます。やはり今孤立、そして虐待のニュースが流れる中、私は本当に母親たちがキャリアを積んだからこそ、何か社会からの疎外感を感じる事が多くて、そしてつい「子供がいなければ」というのは大げさですけども、「子どもがいるせいで」と思うことは、本当に普通にあることなんですね。

ですから、やはり何か自分にごほうびを与えることで、周りの人に自然と優しくなれるのではないかなということで、子育て中の母親たちに声をかけまして、今は焼津、静岡、藤枝の10カ所で、月60回ぐらいレッスンをさせていただいております。あと子育てサロンにも昨年度から呼んでいただきまして、させていただいております。そのような会を代表しまして、きょうはスタッフも聞きに来てくれましたけれども、スタッフを代表しましてここでお話をさせていただきました。ありがとうございました。

#### <発言者4>

吉田町でレタス、スイートコーンなど、ほかにも2、3種類の作物をつくっております。

私は現在、吉田町で農業委員、農業経営振興会の役員をさせていただいており、遊休農地の調査とか、地元小学校の田植えの指導を今年から始めました。町イベント時、小山城祭ですけど、そのとき農業のPRなどが表立って目に見える活動でございます。

昭和の時代より農業後継者不足が喧伝されますが、幸いにも我が家は4世代8人家族で、今年より農業従事者が私ども夫婦と息子夫婦の4名となり、志太榛原農林事務所でも農業経営セミナー、また担い手セミナーに息子夫婦がそれぞれ参加するとのことで、県には大変お世話になっております。現在、経営規模拡大中ということです。今、レタスは2町2反ほど、スイートコーンが6反ほど、あとキャベツが3反ほど、あと水田です。稲ですね。

それではこれから本当の本題に入ります。さて、経営学者であります知事にお尋ねします。環太平洋連携協定T P P、早くから賛成の立場をおとりになりました。アメリカ、チリ、オーストラリア、シンガポール、あとペルーとかニュージーランド、ブルネイ、マレーシア、ベトナムの9カ国、9カ国交渉後の拒否権を認められない、新規参入のカナダ、メキシコのプラス2カ国、この拒否権を認められない新規参入問題というか、新規参入なのですが、当然この後、日本が参加ということは新規参入ということになりますので、これは全く問題ないでしょうか。

それとあと、その後T P Pとか、あと2カ国間の自由貿易、これは中国が言ってきておりますけど、そのものよりも当然に盛り込まれる国家訴訟制度I S D条項というのがありますけど、これは問題ありませんか。遺伝子組替農産物とか、月齢20カ月以下の牛肉など、日本の規制というか、法律にクレームをつけてこないでしょうか。

それで話は変わりますが、私には幼い孫娘がおります。少し成長のゆっくりな子です。かわいい私の宝ですが、私が息子に「この子かわいそうだな」と言ったら、息子は「かわいそうなものか、この子にはこの子の世界がある」と、我が息子ながら強い親だと思いました。そんな息子たちと農業できる喜びは最高ですけれども、将来、この子たちから笑顔の消えない県政であることをお願いするとともに、ぜひ知事には2期目もありという形で、県のリーダーとして御活躍お願いいたします。

<発言者3、発言者4に対する知事のコメント>

今、お二人から、一方は消費する立場、一方はつくる立場から食に関わるお話をいただきまして、発言者3さんから、小麦、すなわち例えばパンを食べるとスープとサラダでいいと、しかしごはんだとおかずをたくさんつくらぬといかんという、なるほど、これは非常にわかりやすいというふうに思いました。それからまたお茶の話もされまして、ミルクも大事だけれども、お茶がもっと大事じゃないかと。日本人の伝統的、あるいは特に静岡県の我々の食生活を見直そうというそういうお話があったと思います。

これはとっても大事な点じゃないかと思えます。今、静岡県はお医者様が少ないので、医療費だけでなく、お医者様が少ないという問題があります。だからいかに健康でなくちゃならないかということにみんな関心があるんですけど、それがたまたまWHOという世界保健機構がことし健康寿命、健康で高齢者になって日々の生活に支障がないというその寿命を健康寿命といいまして、そしてそれを厚生労働省が47都道府県調べたところ、1位が何と御存じのように静岡県の女性であったのですね。男の方は2位だったんです。ち

よっとお酒を飲み過ぎているんじゃないか。それはともかくとしまして、特に焼津あたりは「磯自慢」、また醸造酒で1番になりました。山は富士、酒は静岡日本一というそういうことなのですが、ちょっとほどほどにということがございます。

それはともかくといたしまして、どうして健康長寿が、寿命が長いのかということだったのですが、『週刊ポスト』が7月6日号で特集していましたでしょう。静岡県がなぜ健康長寿、健康寿命が長いのかと。そうすると驚きましたことに219という先ほど私申しましたけど、その品目数が書かれていました。一人歩きしているのですね。つまりいろいろバランスよく食べているという。それからもう一つがお茶をよく飲むという。これは生産高4割5分、流通量6割、そして消費量については日本の平均の2倍、我々は飲んでいて。これが健康の秘訣らしいというふうにその『週刊ポスト』で論じているのですよ。

だからこれはもう日本中の共通知識になっているなということで、ごはんを食べることがいろいろな食材をたくさん食べるということにつながるということで、これが子どもの成長に役立つという、そして子どもが成長に役立つところは、まずはそのお子さんが産まれると、ゼロ歳から3歳まで大変ですね、お母さんなしに子どもは生きていけませんから。

それでお母さんにはお母さんで、例えばそれまで発言者3さんのように社会的に大変活躍された方がいらして、子育てに忙殺されるとフラストレーションがたまりかねないということで、子どもを連れて自分のリフレッシュができるというやり方ができないものかと。同じような悩みを抱えている人がいらして、今その人たちがたくさんいるということで、そうすると同じような悩みが逆にまた共有されるし、またそれによって子育ても楽になるという。御自身も子どもがそばにいたので安心で、そして子育ての方法についてもお互いに学べるという、こういうことで、いろいろな好循環が働いているということでした。

最近は何かシニアの方にも教えていらっしゃるということですが、シニアの方がそこに加わると、シニアというのは子育てを経験した人と言っていいと思いますが、50代、60代で子どもがもうすっかりひとり立ちをして、養育費、あるいは学費がかからなくなったというときに、その子育てで大変だと思っているそういう人たちのところに来ると、既に子どもを育てた経験がありますから、その知恵が若いお母さん方に伝えるということで、昔からどんぶらこ、どんぶらこと、桃太郎というよその子をおばあさんが育ててますよね。かぐや姫だって、おじいさんがたまたま見つけてきたその子をおじいさんが育てたというより、私はおばあさんが育てたと思うのですよ。おばあさんが育てているという、つまりシニアの方々が子育ての名人だということが、その背景にあると思いますから、そうした

方向にも今向かっているのではないかと。

そしてその子どもが、お母さんがリフレッシュしながら元気で、しかし食材についてはやっぱり一番心配なので、いろいろなたたくさんのものをバランスよく食べるという、好き嫌いがないようにしなくちゃいけないというような、そのためにはごはんとおかずというそういう伝統食を失っちゃならないという、三島ではそうしているということでございますので、焼津と吉田におきましては、これをここにいらっしゃる方は共有していただいて、学校の先生がいらっしゃるとなれば、特に今日は吉田の小学校の校長先生にはこれはすぐ伝えなくちゃいけない。それから焼津の中学校の校長先生、あそこに文化専門委員会という中学1年生と中学2年生と中学3年生が文化専門委員になっているのですよ、もう難しい委員会の、そこに伝えておきます。それで、自らお母さんに言って、あるいはお父さんに言って、そういう食事をするようにというふうにすればいいと思います。

さて、今度は発言者4さんのことですが、レタスづくりの名人だと。これから吉田の田村町長さんと御一緒に長崎に行かれるそうです。長崎でもレタスを使っている。そのレタスは、先ほど聞いた話なのですが、加工用だそうです。こちらは、ラップレタスといいまして、違うらしいのです。向こうの秘密を取りに行くという。つまり負けないぞという、初めから向こうのものを全部技術が見ればわかるというそういうことでしょう。

ですからこちらのレタスにしろ、スイートコーンにしろ、先ほど割と謙遜して言われていましたけれども、何しろ農業経営振興会の役員でいらっしゃるということで、農業のプロなわけですね。しかし自分より上の人がいると彼は言いました。そのとおりだと思います。こちらの人たちは種をまいて収穫して落穂を拾うという、これはミレーの絵があります。『種まく人』、岩波書店という本屋がありまして、そのロゴマークが『種まく人』、その絵の一つが書かれています。その同じミレーという、これは農民の絵を書いた有名な画家ですけれども、『落穂拾い』というのがあるんです。取り残したやつを摘む、それから『晩鐘』という絵があります。これは神への感謝なのです。これが農作業なのです。欧米の基本的な粗放農業です。

しかしうちは、うちというか静岡県を含めた日本の農業というのは、本当に手間暇かける。子どもに手間暇かけるほどに作物に対して手間暇をかけています。ですから向こうの人から見ると、農業とは見えないのです。農業は英語にはアグリカルチャー (Agriculture) といいます。日本の農業を今から 150 年ほど前に見た人は何と言ったか、これは農業じゃないと言ったのです。ホルティカルチャー (Horticulture) と言ったのです。ホルティカルチャーというのは何かというと園芸という意味です。園芸というのは、庭づくりの一種

でしょう。庭づくりのように手間暇かけてバラをイギリスのジェントルマンが育てるように日本人は作物を育てていると。つまり芸術品なのです。庭は芸術ですから、芸術品として見ているのです。

芸術品は価格が高いのは当たり前です。そして安ければ買うということもあるかもしれない、確かに。しかし先ほど発言者3さんが言われましたように、後ろを見ると添加物がある、あるいはひよっとするとこれは危ないかもしれないと思ったら、こちらの方が50円高い、こちらの方が50円安い、どっちにするか。背に腹をかえられないときがあるかもしれませんが、しかし本当に背に腹をかえられない国かという、貧乏な国はたくさんあります。日本は先進国の中の先進国です。そして静岡県は東京、愛知に次いで平均ですけれども、個人所得は日本で3位です。そして子供の数は実は1点数人なのです。つまり人口は減っています。今の人口は374万人です。ですから私が知事になったときには380万人でした。これは富士山を下っていくように下っていくのを何とか止めなくちゃいけないと思っているわけです。

そのときに、そういう子どもに安いからといって、それを買うかというそういう時代じゃないだろうと。ですから価格だけで見ちゃだめだと。自分たちのものは自分たちで選ぶと。自分たちの地域のものを強制されるわけじゃありませんから、価格は一つのバロメーターで、判断基準です。しかし価格だけで人は動かない。

物は品質と価格からなっておりますので、品質において芸術品、農芸品と言ってはばかることはない。献上品が、実は献上品の数は決まっているのですけれども、しかしいろんなルートで、例えばシラスが食べたいと皇后陛下が言われた。お医者様を經由して、夏ミカンが食べたいと陛下が言われると、いろんな経由で入ると。つまりその製品は一般の価格よりも若干高いかもしれませんが、しかしここで自給を若干しつつというのはつまり真似事として小さな庭を持つなり、消費になること以外のものも上手にすることを通しますと、私は何を買うかを決めるのは消費者だ、母親だと。だからそんな価格が安いから負けるといったら、それは間違いだと思っています。

その証拠に一つ挙げましょう。細川大臣のときに日本の作況指数が74に、25%足らなくなったのです。ですから、細川護熙首相は外米を入れたのですよ。クォーター制で入れるということで、入れることは自由貿易じゃなくて、入れる量を決めたのです。どうなりましたか。むちゃくちゃ安いんですよ。全部パイリングアップです。古米、古々米、古々々米になって、傷米になって、それが市場に出て大問題になったことがありました。つまり1キログラム、一方はコシヒカリが600円、700円する、こちらは10円になっても買わな

いのです。

私は当時、早稲田大学の教員やっていたのですが、大学の学生というのは基本的に貧乏です。基本的に腹がいつも飢えているわけですね。ところが飯屋に行って、ごはんを山盛りやってくれれば、そこは人気があるんです。ところがそこに外米が入ったら行かなくなったのです。政府がブレンドしろと言った。そこも入らない。だから我々の味覚は子どものときから肥えています。ごはん食べて、これはまずいと、それがわかる、そういうものを信じて私はTPPなんかについて、「恐るるに足らず」というところがあります。

中国とアメリカなら、私は中国の国家主席に日系人になることは100%ないと見ている。しかしアメリカの大統領に日系人になることはあり得ますよ。ペルーの大統領にフジモリさんがなったじゃないですか。ペルーに日系人がいるとだれが思っていました？ブラジルにはいると知っていたけど、一旦なったら応援したでしょう。アメリカ人で黒人と婦人と日系人で、どこが最初に大統領になるか、私は婦人、その次に日系人、それから黒人というふうに思っていたのですけれども、違いました。いずれにしても、その可能性がある。そのときアメリカが左前だったら日本人は助けますよ。そういう国です。

私は基本的に中国のものが安い、そして悪口を言うつもりはありませんけれども、必ずしも清潔感が我々と同じではありません。安いから安心かといったら、そこがポイントです。我々はこの水、これ柿田川の水で、何で大井川の水じゃないのか。「富士の根を幾歳潜る白雪の清き水湧く柿田川かな」と書いてある。水がきれいなのですよ。だからお米もお酒もお茶もおいしい、そしてレタスもいかにもみずみずしい。みずみずしいというのは英語でできますか。ウォーターです。

そのイギリスの水とか、ヨーロッパの水というのは濁っていますよ。中国の水どうか、黄河というのは黄色いから黄河という。揚子江行かれた人います？上海、河口が泥じゃありませんか。水がきれいというのは常識じゃないのです。我々にとって水がきれいというのが当たり前です。けんかして何と言います？水に流して、きれいさっぱり仲良くなれ。それが黄河に流してごらんなさい。ますます真っ黄黄になっている。揚子江に流したらどろどろになっちゃう。だからうちはきれいなのですね。

そういう感覚があるので、汚い、不潔だ、ひょっとすると汚染されているかもしれないと思ったら、しないのが日本人だ、我々は同胞を信じたいということで、価値観において私はアメリカの方を信じています。それは偏見かもしれませんが、食品に関しては全然負けてないというふうに思っております。価格だけで人は動かない。

だから焼津のような、こういう本当に世界にオープンなところは1回開けてみるといい。

逃げ腰になってはいけません。閉じちゃいけません。堂々と入れてみる。これはだめだ、なぜかということ言えばいい。一つ一つ交渉です。アメリカと一緒にやるところで、メキシコとだっているいろいろ違うことがあります。東南アジアとも幾らでも違うところがあります。それを言えるだけの最高の知識を持っているのが日本ですから、そういうところを食わず嫌いじゃありませんが、そういう鎖国的根性というのはまず払拭することが大切じゃないかということで、心配する向きは、これは幾ら心配してもいいですけれども、過剰にならないようお願いしたいということを申し上げたいと思っています。

#### < 発言者 5 >

私は現在、平日は会社に勤めておりまして、プライベートで焼津のまちづくり活動に携わっております。

私がしているまちづくり活動というのは、情報発信をテーマにしておりまして、例えば、焼津には海もありますし、山もありますし、本当に豊富な地域資源というものがございまして。そのような焼津の魅力というのを市民の人たちにスケッチブックに書いてもらって、それを写真に撮って集めて、私たち団体が取りまとめて、いろんなイベント会場で焼津の宝物を紹介するという活動をしております。当たり前のように自分の身の回りにあるものというのは、ついつい見落としがちになってしまうのですけれども、本当に焼津には誇れるものがたくさんあると思っておりますので、市民の目線で焼津を紹介するということを目指しております。

現在、このような活動を始めて4年目になるのですが、もともとは静岡県で開催された国民文化祭が活動のきっかけとなりました。国民文化祭ということで、静岡県にいろんな県から人が来るということで、焼津ならではのおもてなし、焼津だったら何ができるかということ考えた中での活動でした。

活動を継続していくうちに本当に多くの団体、また市民の方々と接することができ、しかしその反面で多くの団体と接するのですが、それぞれが個々の活動にとどまっているという現状もありまして、私たちの団体では今年そういった点と点で活動している団体を線になるように結んでいきたいと考えており、今年交流会ということで一堂に会して接する機会を設けたいと思っております。

そして今日私が恐らくこの場所に呼んでいただいたというのは、比較的若いながらも、こういった活動しているからだ勝手に思っているわけなのですけれども、このような活動に私が携わり始めたのは大学3年生のときのことでした。当時、大学3年生だった私は



学生向けのフリーペーパーをつくる団体に入りまして、創刊をすることになりました。

お金もなければ、本当に何の技術もなく、自分たちで広告営業をしてお金を稼いで、そして取材をして文章を書くという中で、本当に地域の皆さんからは厳しいお言葉もいただきましたし、優しいお言葉もいっぱいいただいて、でも厳しいお言葉も優しいお言葉も、どちらの方に関しても本当に皆さん応援していただく方ばかりで、そして初めのうちはやはり学生ということで、この子たちに本当にできるのだろうかということで、厳しいお言葉をいっぱいいただいたのですけれども、回を重ねて、また発行部数が増えたりだとか、配布する場所がふえていくうちに、逆にお断りされた方の中から「ここまでできると思っ

てなかったから、広告ぜひ載せさせて」というふうに言ってもらえたりだとか、今は静岡県のそれこそいろんな企業さんと一緒にする仕事も、その私が卒業した団体ですけれども、そういうふうになってきたということが非常にうれしく思っております。若者というのは比較的受け身な印象を皆さんからすると受けるかもしれないのですけれども、「あの子どもたちにお願いたしたいね」、そういうふうに言ってもらえるように私たちもなっていかなければいけないのかなと考えております。

今、私が所属する団体は、一番年齢が上の方が50代の方がいらっしゃるのですけれども、こういうまちづくり活動というのは、年齢も性別も関係なくいろんな人が携わって活動するということに楽しさがあると思っておりますので、どんどん、どんどん若い人を巻き込んでいってもらえたら、私たちもしかしたら受け身なのかもしれないのですけれども、私たちもどんどん、どんどん進んでいきますので、やはり人が元気なまちというのは、まちも元気になると思っておりますので、一緒によろしくお願いたします。

#### <発言者6>

人間、生活していくために三つ大きな大事なものを挙げよといったら、私は一番初め、やっぱり皆さんおっしゃった食だと思いましたが、食べること。それから運動だと思います。それで三つ目が睡眠、この三つがきちっととれていれば、何か元気でいられるかなと思います。そのうちの二つ目の運動という面で私は今日しゃべらせてもらいます。

平成2年4月、町の教育委員会から声かけていただきまして、社会体育のお手伝いをすることになった、それがきっかけです。吉田町には大きな総合体育館というのがあります。すごく大きいものですから、イベントだとか、夜の社会体育には大変重宝されて使用されていきました。しかし、そのころ昼間の体育館はだれも利用者がなくて、鍵がかかっていたのです。バスケットコートも3面あって、すごい大きなすばらしいものなのですが、昼間

は全然なしということでした。

実は私かつて公立中学校の体育の教師をやっていた経験があって、姑の病気で学校をやめたのですけれども、その後このところで呼ばれて、何かそれが自分に生かされないかなということを感じて、空いている体育館を何とか利用できないかと思っていました。その平成2年のころというのは、まだそんなに社会体育で健康体操教室をやるというのは、今ほど盛んではなかったんですね。だからそんな「昼間体操教室なんかに行って悠長だね」なんていうような感じで見られて、あんまり働く方ばかりで、そんなところへ行くということは少なかったのではないかと思いますね。

それで体育館は多分空いていたのではないかなと思いますけれども、そこで自分のやってきたことを少しでも生かしたいという思いがあって、じゃ婦人体操を始めてみようかというような軽い気持ちで、「30人からね」という感じで募集をかけたんですね。そしたら90名以上の応募者が来てくださったのです。30代、40代、60代ぐらいまでの女性ばかりだったのですが、それで「ええっ、こんなにいるんだ」というのは、私は目からウロコでしたね。

それで、そんなにやりたいという方がいらっしゃるのだったら、私もここでもう1回勉強し直そうと思って、学校の体育とは全く違った社会体育ですので、一からやり直しました。いろんなエアロビクスの教室に行って、一から教わりました。ストレッチのやり方も一から教わりました。そういうことで40過ぎてからだったのですが、やり直しをさせていただきます。

そしたら町からの応募者も結構あったものですから、じゃ次の年はもっと教室つくろうと思って、体育館の方に鍵を開けていただいて、そちらに事務局の方も入っていただいて、町職ですよ、入っていただいて企画をしたりして、それで私も中に入らせてもらいました。私一人じゃとてもできないものだから、自分の後輩たちなんかもやっている方たちを呼んできて、指導者を呼んできて体操教室、子どもから高齢者までの幾つかの人たちの年齢層に応じた教室をたくさんつくったならば、もう来るは来るは、本当に体育館が昼間は静かだったのが大変にぎわって、活気のある体育館に生まれ変わったんですね。それが平成2年から3年にかけてです。それから22年以上たっているのですが、それから減る一方じゃなくて、もう本当にどんどん、どんどんスポーツやる人間というのは増えてきているのです。

それで体育館だけでは少なくなっちゃって、小学校、中学校の体育館も今どんどん使用されています。空いているところを取るのが大変なくらいに体操教室が今盛んにやっ

るのですが、そういう中だけじゃなくて、アウトドアの運動も、公園もいっぱいあるので、公園でもグランドゴルフをやったりだとか、いろんなことやっていらっしゃいます。私たちの、ここに町長がいるからよいしょするわけじゃありませんけれども、昨年吉田中学校、二つグラウンドがあるんですね。400メートルとれる野球やったりソフトやったりするそういうグラウンドと、もう一つ 200メートルとれる陸上競技場という二つグラウンドがあるのですが、その二つ目の陸上競技場の方のグラウンドに、何と夜間照明つけてくれたんです。

夜間照明をつけることによって、その辺の町を歩いていた人、あるいはちょっと公園の方へ行って走っていた人、あるいは道路の固いところを走っていた人、そういう方たちが夜グラウンドに集まるようになったのです。だから結構グラウンドでソフトランニング教室を始めても大勢参加者がいらっしゃいます。ウォーキングやる方もいらっしゃるし、大変なスポーツをやる方たちがどんどん今増えている状態だと私は思っています。

そうこうしているうちに、ちょっと遡りますけれども平成 17 年度、ほんの少し前ですけども、吉田町で「健やかで安らぎのある安心して暮らせるまちづくり」を目指し、そこに健康づくりの事業の一つにダンス講習会というのを取り上げてくれました。そこでいろんなところで体操教室をやっている先生方に声をかけて、吉田町ダンス健康づくり推進委員会というのを立ち上げました。18 年度にこの委員会が立ち上がって、今年 7 年目を迎えました。

そこで何をするかといたら、吉田町にオリジナルダンスが 5 曲ほどあるのですけれども、昔から踊られている曲を中心に皆さんともう 1 回町のダンスを思い起こそうよということでやり始めたんですけれども、やっぱりマンネリ化してくるとおもしろくないということで、新しい曲つくってよという町からの意見もありまして、すごい大きなお金だったと思うんですけれども、町長が「おお、やるよ、やるよ」、いい町長なんです。それでお金出してくださって、本当にいい曲をつくってくれました。

曲をつくって、それに振り付けをされて、ダンスができたのですが、その曲を今大きなお金を使ったものですから、それを 100 人 200 人で終わってしまったのでは申しわけない、税金でつくられたわけですからね。そこで今 3 万人強の人口なのですが、せめて 1 割の方に、3,000 人ですよ、には踊ってもらおうよねという目標を立てて始まっています。3,000 人も踊ってくれるかしらなんて思ったのですが、2 年目にはもう完全に達成されました。

今年その曲ができて 4 年目を迎えるのですが、小学校の運動会にも全校で踊るプログラ

ムに入れてくれたりだとか、幼稚園でやってくれたりだとか、いろんなグループでやり出してくださって、私たち推進委員もその場所に行って指導して、健康になってもらおうねという感じでやってはいるんですけども、何しろ私が今感じていることは、女性は元気で来てくれます。だめなのは男です。なかなか来てくれない。

そこで今私たちは、その推進委員もそうなのですが、男性を引っ張り出すにはどうしたらいいかねという話があって、ダンスだから来ないんだよねという話もあるんですよ。だんだん見ていくと、球技の方では結構男性の方はやられているから、まあいいかと思いつながらいるのですけれども、その辺もう少し男の方も来ていただいて、一緒になって元気になってもらうといいなと思っているのですけれどもね。

それで、今年は1割以上の方が踊ってくれて元気になってくれてはいるのですが、もうちょっと広めて、外国人の方たちも1,000人くらいいるんですね、吉田町には。その方たちもどんどん仲間に入ってくださいよということで呼びかけて、国際交流の方たちと一緒に今やらせてもらっています。

それと同時に会社、今会社に勤めている方たち、本当に疲れていますよね、3交代があったり、夜勤があったりして。そういう方たちもぜひ会社ぐるみでやっていただいて、肩凝りが治ったとか、運動不足が解消できたとかというような形で会社になってくれればいいなというふうに思います。

それで私が一番今目にとまるのは、先ほど発言者4さんが言った農業の方たちなのです。農業を長くやってきた高齢者に近い中高年の御婦人の方たちのひざのぐあいが大分悪くなっている人が目にとまるんですね。外またになっているひざだとか、ちょっと曲がりかかった腰だとかというのがあって、「どうしたの?」と言うと、「やっぱりね、田んぼにいるもんでね」というだけで終わっちゃうんですね。

だからそういう方たちは「ぜひ来てよ」と言う、「昼間仕事して体使っているのに、夜まで体操教室なんか行ったら、またくたびれちゃうよ」という返事が返ってきて、一向にその辺が進んでいかないのですが、その辺をちょっと「そうじゃないんだよ、実は」。先ほどもヨガやってらっしゃると言ったけれども、ちょっと運動やると違うんですよ、体がよくよみがえってくるんですね。そういうものをわかってもらえるような方向に持っていきたいなと思って今いるのですね。

私たち生活しているうちに、今一番何が幸せですかと問われたら、皆さん何て答えます? やっぱり健康第一だと思うんですよ。だから私たちは現在32名推進委員がいて、20代から60代まで。32名、女性ばかりですけれども、ダンスや軽い体操を通して健康づくりを

推進していますが、ますます高齢化社会になって、医療費も気になります。仲間とのコミュニケーションをつくるのも大変下手な人もいらっしゃるし、みんなが楽しい人生を送れたらいいなって、そんなふうなメンタルな部分も指導しながらやっっていこうねということ、推進委員会で、月1回の勉強会なんですけれども取り入れながら、これから進めていこうと思っています。津波が来ても負けない、逃げられる体力をつくろうねと言いながら、おばあちゃんたちと毎日体操やっています。

<発言者5、発言者6に対する知事のコメント>

今日はここには6人座っていらっしゃるのですが、女性が4人。いかに女性パワーが焼津、吉田では強いかということのあらわれではないかと思いますが、それを今じっくり感じたところがございます。

発言者5さんは、まだ大学卒業して間もないと、しかし焼津御出身で静岡市の方で学ばれて、改めて静岡の魅力、なかんずく自分のふるさとである焼津の魅力を発掘しようということで、大学の時代にみずから新聞を立ち上げられて、その初代の編集長として、その取材のこつをそれなりに身につけて、そして静岡県焼津の宝物探しをやろうと。私はこういう若い人がいるというのは焼津にとって本当に頼もしい限りだと思います。

やはり地元のことを知るには、学校で教わることだけでは、学校で教わることは日本、北海道から沖縄まで共通して学ぶことが文科省の学習指導要領に書かれておりまして、それを教えるわけですから、だから地元のことは案外、灯台もと暗しで知らないことが多いのです。それをお互いこういうものがありますよということの媒体になって知らせようというそういう仕事をされているので、本当に行政にとってはありがたい存在じゃないかというふうに思います。

恐らく焼津の市長さんも相当助けられているに違いないと思います。これからまた紆余曲折があるかもしれませんが、大きく育ててほしいと。これがいわば「焼津学」と、そういう名前はもちろんありませんけれども、そういう地域のことを地域の人みんな知っていて、そして焼津自慢だけでなく、焼津と比べて枕崎はどうだ、あるいは、そうですね、ほかの漁港はどうだとか、ほかの村はどうだ、あるいは日本海側はどうだということによって通して知識を広げていくと。自分たちの地域に立脚しながら世界のことを知っていくという。今のところ、教科書は根なし草ですから、日本というところに根をおろしているとはいえ、多くの学問はヨーロッパの学問を盾にしたものです、翻訳したものですから。ですから、こういう今、発言者5さんがなさっておられるようなことが私は新しい

地域の人たちの自立の一番の基礎だというふうに思っています。

それから発言者6さんのお話には、もう感動しましたね、大したものだと。まずお姑さんのために学校をやめられたというのが偉いじゃないですか。なかなか御立派な方だと思えます。そしてその経験を生かして、今度はどんな御病気だったか知りませんが、そういう病気にならなくて済むように、それを自分の教師の体験、実績を生かして、今度は社会体育としてやる。しかしこれは学校で子どもに教えるのと全く違ったということで、一から40代で始めた。それが平成2、3年と言うのですから、40代で、それから平成2、3年とすると20年ぐらいたっていますから、そうは見えないですよ。それはどうしてかという、自らが腰も曲がってない、あるいは何かお婆さんぽく全然ないという、それがつまり彼女が言われていることが本当だということの証拠じゃないかと思えます。ここがいいですよ。

そしてまたどういうダンスを始めるか、いろんなことがあると思えますけれども、この吉田に残されている昔からの盆踊りであるとか、いろいろな町のそれをまず復活されるというところから始まって、そこから新しい現代に合ったものをつくっていきましょうということで、3万人に対して1割という目標を立てられて、それをもう超えてしまったと。

そして今度は、男どもはともかくとして、外国人にも声をかけようというのですから、それはもう踊りをするときには、体を動かして、そして心が一つになります。リズムと一緒にするわけですから、体と心が一つになると。そしてその喜びが分かち合えるので、外国人にとってはすごくありがたいことだと思いますし、そしてまたいざというときに、そういう外国の人も困らないで、信頼関係がいざというときに必ず生きてくるというふうに思えます。

これはやっぱり町長さんと、つまり行政と、こういう健康づくりのために一生懸命なさっておられる方との関係がいいということの証拠じゃないかということで、吉田町の誇りじゃないかというふうに感じましたね。

そして食と健康と、それから睡眠とおっしゃいました。やっぱり体を動かせば、疲れるので眠たくなるということがあるので、いらんことにぐちゃぐちゃ、ぐちゃぐちゃ頭を悩まされているよりは、体を動かして、そしてぐっすり眠ると、おいしいものをいただくと、健康でいるという。「達者でな〜」とかという歌がありましたな。「達者かな〜」だけ。あっ「達者でな〜」でしたね。あれ馬っ子に向かって言っているわけですがけれども、ともかく達者でいてくれと、健康でというのを具体的にやる方法を生み出されていると。空港でもときどきお出ましいただいて、いろいろなお客様などにおもてなしまでいただい

て、県を代表いたしまして改めて御礼申し上げます。

ともかく内外に向かって元気な女性たち、20代から60代までいらっしゃるということですが、この男性版も出てきてほしいというふうに思ったわけですが、男性の方は黙々と土いじりでレタスをつくっているという人もいらっしゃいますので、これも一つの生き方かなというふうに思います。どうもありがとうございました。

<発言者4>

何か私の言いたいことが伝わらなかったようで、まこと申しわけないです。

自分、外国の農産物に負けるつもりだったら経営規模は拡大しません。それから私が一番心配しているのは、もたもた、もたもたして、結局は新規参入の方しか取れなくなった日本です。川勝知事や、うちの町長や、昔の白洲次郎さんみたいな方が日本のトップにおられるのだったら何の心配もしないのですが、いずれこういう形になるんだったらという気持ちでいっぱいなんです。

<発言者4に対する知事のコメント>

どうもありがとうございました。ともかく町長さんのようだと見ていただいて、よかったですね。後継者の話というのはとても大事で、今耕作放棄地もごさいます。御案内のように、日本の耕作放棄地は7～8%ですよ、全耕地の。しかし静岡県は17～18%です。後継者がいない。ところが失業者がたくさんいるでしょう。

ですから私はこの3.11以後、第一次産業といいますか、特に食に関わる産業への関心が高まってきています。そして追い風も吹いています。この間の162キロ一挙の開通のときに593万人の人が来た。それで物が足りないところが出てきているのですよ、SA、PAで。物が足りない、人が足りない。それは物というのは食材なのです。いよいよ来たかと。

やっぱりこの近くではありませんが、藤枝に静岡大学の農業のセンターがありますね。あそこは新東名と1号線と東名のちょうど最高の位置関係のところにありますから、そして酪農の方はやめて、今は雑草が、ぺんぺん草が生えておりましたけれども、いわゆるビニールの園芸ですね、これは相当にしっかりなさっておられる。それからちょっと外れますけれども、磐田に農業の専門校があります。ここ定員割れしています。私はここに奨学金を出したいというか、特待生をポケットマネーで出したい、授業料とあれば要らない。そしたらそれは賄賂になるからやめろと言われました。

それで県として、とにかく食べることは毎日のことなので、そして関心が高まっていますので、そしてたくさん物がありますし、必ずしもそれがどのように使われているかということについて知識が豊かではありません。もう農協さんに渡して、あとは野となれ山となれというか、きっとおいしく皆さんにいただいてもらっているのだらうと、おいしいものなので。それぐらいになっていますけれども、地域の物は地域でまず消費する。子どもたちが給食で使うということが一番の基本ですけれども、そのあたりから始まって、お母さんがその地域のものをなるべく旬のものを手に入れるというふうにして、そうすると物が巡ると、370 万人以上いますから、相当にたくさんの口があるのですよ。

こういうところから始めて、私は地域の自立ということを考える。中央政府はもたもたしていませんでしょう。もう小沢さんがどうしようが関係ないです。あんなものに振り回されていてどうするのです。もういいと。374 万もいたら一つの国ですよ。「ふじのくに」づくり宣言もやっているわけです。知ってます？ 知りませんか？

「ふじのくに」という言葉は、もう 1985 年ぐらいからコピーライターなしにだれかが言い始めているのです。「ふじのくに」交流会を東京でやります、大阪でやります、あるいは九州でやりますから団長として行けと。「ふじのくに」って何、静岡県のことだと、それを今自覚的に使って、「ふじのくに」づくり宣言もして、昨年のお進講のときには、それを天皇陛下の前でも言っておきまして、にこにこ、にこにこ笑って、おもしろいこと言う人だと思って聞いておられました。

別にお隣と戦争するわけでも何でもありません。ただ、もしもお隣がなくなってもやっていけるかどうかという気持ち、お隣の愛知県も長野県も山梨県も神奈川県も全部あります。言葉も一緒、通貨も一緒、パスポートも要らない、同じ日本語が通じる日本人です。親戚もいる、友達もいる、しかし自分のところは自分たちでしか生きられない場合どうなるかというふうに考えてみませんかということで、もうすべて前倒しでやっていくと。

「中央政府の言っていることを見ながら適切に対処していきます」という答弁がいつも議会における答弁だったんです。政府の動きを見て、それをよく見ながら適切に対処を検討してまいります。要するに何もしないということですね。そういうのはやめる、それをもう言わない、陳情にも行かない、勤務評定すると言っているわけです。あなた方は地域から選ばれているのですから、向こうから来て、何をしてほしいかと見に来ていますから、そういうふうになっていますから。気持ち一つです。

十分に人口があります。一次産業から二次産業、三次産業、全部あります。海があり、山があり、こういう全体全部そろっているようなところはなかなかありません。そうし



た場の力というものを活用してやっていけば十分に自立できると。まずその第一が食だ。その食は健康のためです、命のもとですから。そういうふうにして市町の首長先生と一緒にやっていかなくちやいけない。

しかし、いいことづくめではないと。津波も来る、その前に地震があり得る。それからまた富士山だって活火山ですから、これも噴火したことがございますので、したがってそういう自然に対してはやはり謙虚な気持ちでなくちやいかんということで、そのためには地元のことをよく知っていないといけない。

ですから日本について一般的に言うのではなくて、地元のことについては、もうきっちり説明できるような、そういう人間であろうということです。そしてこの地元が日本の縮図みたいなどころがあります。東京の文化も来ているし、京都の文化も来ています。山があり、海があり、そして野があり、工場地域がある。いわば日本の縮図ですから、このことがわかれば日本のことがわかるようなそういう構造になっているので、我々としましては、このことを知れば知るほど、焼津のことを知ろうと思ったらビキニのこと知ってないとだめですよ。ビキニのこと知ろうと思ったら、その水爆のこと、あるいは原子力爆弾のこと、あるいは核兵器のことについて知ってなくちやいけません。一気に外に広がります。それとの関わりで焼津のことを知る。

遠洋漁業、あるいは沿岸漁業というものは、沿岸漁業がどうして豊かなのか、そうするとそれはプランクトンがその水域で非常に豊かだと。どうしてプランクトンが豊かだといえ、実は栄養のある雪解け水や何がばあっと来ているからだ。そうすると山のことを知らないで漁業のことがわからないということになりますから、このことを通して世界を知るという、ただし具体的に自分たちの地域についてはしっかりと皆で勉強するというそういう姿勢が必要だと。

そうしますと、私は「知は力」といいますけれども、負けないというふうに思っているのですよ。だから今、発言者4さんの方からエールをいただきまして、ああ、そうだったのかということで、あちこちでいつもいじめられてばかりいるものですから、ちょっと言われるとすぐ被害妄想でやられたんじゃないかと思ったりして、そうじゃなかったということがわかって、どうもありがとうございました。

### <発言者3>

以前、焼津市の給食センターに出向いたときのお話をちょっと思い出したのですが、給食センターでメニューを考えていらっしゃる管理栄養士さんがこんなことをおっしゃって

いました。焼津市はカツオが豊富なので、だしを今とることをしていると。でもそのだしは肉骨粉、魚の骨を砕いたので入っていることがあって、のどに突っかえましたということでクレームを言う先生が多いと。先生の先を見ると、多分親御さんから言われてやむを得なく先生が給食センターに申し上げたと思うのですが、それをいかに私たちは受けとめたらいいか悩んでおりますというお話があったんですね。

いやいや、もうそれはやめてくださいと。ぜひそれを続けていただきたい、焼津市のこんなにもいいものを使わずにして、どこの給食、こんなにもいいものを給食に入れなくてどうするんだということで申し上げましたが、今マスコミ、モンスターペアレンツというすごく言葉がはやった時代がありまして、まさに今まだそれが続いております。母親が学校に物を言うのはちょっと図々しいとか、すごく気を使いますね。私なんか、つい物を言いたいところですけども、いつも言葉をのんで、なので先生との距離がすごくあるなということも小学校1年に、今も息子が来てくれていますけれども、息子が上がって思いました。先生も私たちにすごく気を使ってくれています。

でも、そんなにもいいことをしているのに、私たちのような「いいことしてくれてありがとうございます」ということでは電話はしませんよね、給食センターに。なので、ありがたいと思っている親の気持ちは全然行政には伝わっていないということがわかったんですね。苦情だけは頻りに電話がかかってきますけれども、いいことは、ありがとう、すばらしいという電話をわざわざする親がちょっと少ないではないかなと。私も含めて、ちょっとしないかなと思ったときに、何かモンスターペアレンツにかわれる、早くいい言葉をマスコミ各社の方とか、行政の方、何かこのモンスターペアレンツという言葉がやっぱり私たちに歯どめをかけていますので、何かないかなと思って、また名付けていきたいなと思っております。

すみません、本題です。先ほど三島市の米飯給食のお話ししましたけれども、各小学校1升炊きの炊飯器を2台ずつ入れております。なので炊き上がりの炊飯ジャーで召し上がっているのが三島市の現状です。先ほど校長先生にというお話を知事さんがなさいましたけれども、国の助成金をいただいて、市からの援助でそれが賄ったということを伺っております。

県にお金があるのか、私はちょっとわかりませんが、県からの助成金なのか、市からのお金なのかわかりませんが、私がこれから9年間、息子が給食を食べる立場だから申しますけれども、息子の言葉を代弁しますと、炊き立てのほかっとしたごはんをいただけるようにするためには、ボルトを上げないといけないですね。各教室のコンセントのボ

ルトを上げないといけない。夏休みに三島市は全工事をしたそうです。そのくらいすごく簡単に私も先ほど提案しましたけれども、本当にお金がかかりますし、難しい問題ですね。

その辺、今日せつかく知事さんも市長さんもいらっしゃっていますので、ちょっと脳裏にとめておいていただければ、そしてさっき賄賂になるからポケットマネーは出せないとおっしゃいましたので、市の皆さんからの税金が使われることになるかもしれませんが、子どもたちのためだったら税金をそういうことに使っていただいてもいいというようなお気持ちがあれば、本当にぜひいつの日か米飯給食等、いろんなことを食の方ですね、考えていただけるかなと思っております。

#### <発言者3に対する知事のコメント>

もう今、焼津の市長さんが「うん、わかった、やる」とおっしゃっていますから大丈夫です。ともかく一緒にちょっと考えましょう。ただ、ごはん対パンという対立関係で考えるのはよくありませんね。パンの中にあんこといいますか、「あんパン」でありますでしょう。ああいう小豆のものをパンに挟むなんていうのは、ヨーロッパでは全くありませんから。それからコロケ、サラダですね、サラダをパンで挟んでサンドイッチあるでしょう。ああいうことも向こうではやりません。ですから一見気がつかないですけども、日本流にいろいろ工夫しているところもあるのですよ。

洋食もチャイニーズも、それから昔のいわゆる和食も全部取り込んでいるのが日本の食事です。ですから、あれかこれかではなくて、あれもこれもで、ただし一番大切な今やっぱり稲作農家、これを何とかしたいという気持ちは皆多くの方がございますし、特に静岡県は登呂の遺跡ということで、かつて教科書に載ったぐらいです。ですから稲作、田んぼが単に稲を供給するだけでなく、水田を通して、景観もきれいですし、水資源も涵養していますし、それにまつわるいろんな伝統も残すことになっているのですね。非常にこういう多面的な役割を持っている水田のことですから、それは最終的にはやっぱりそれを消費者がいただくというそれがなければ、いかに稲作を大事にしようと言ってもだめなので、子どもたちにその味覚を小さいときから、おいしいごはんの味覚をつけさせるとなれば、いわば外米に負けないわけです。そうしたこともにらみながら、少しくちよっとポルトを上げれば三島のようにできるということですから、どこかできるところからやっければいいんじゃないかというのが今のところの感想でございます。また後で市長さんともお話をしたいと存じます。

<発言者3に対する焼津市長のコメント>

今お話しいただきましたけれども、すべてできるわけじゃない。やっぱりしっかりと子どもに対しては安全安心な食をしっかりとスタッフとして考えていくと、こういうことの参考として、地産地消ですから、焼津の魚も、また地域で採れた野菜等もしっかりと考えていきます。ただし、焼津だけの給食をするにも地元だけでは足りなくて、いろいろと苦労していますけれども、おいしいものを食べるように頑張ります。

<発言者6>

今年から中学校の体育の授業にダンスが取り上げられたというのは御存じでしょうか、皆さん。その実態が今どんなふうになっているかということは私もよくわからないのですが、ちょっとお友達なんかで聞くところによりますと、ダンスが何で取り上げられたかなということを考えたときに、ただビデオを見て、AKB48がやっているようなのを映し出されて、それを「はい、真似しなさい」というのは、これはダンスじゃないと思うんです。そんなようなのを何か取り上げようとしている学校もあるやに聞きます。あるやにです。ですから、確実じゃないのですが、そんなこともちょっと聞いたことがあるんです。何で文部省の方たちがダンスを取り上げたかということも考えて、もう1回考えてみたいなと思ったんですね。

今実際に中学校の体育の教師はほとんどが男性です。女性の方が何人いらっしゃるかなと、数えるぐらいですね。そういうところから見て、ダンスの指導できるのかしら、ちょっと申しわけないですけど、そんなちょっと心配を、私だけじゃなくて大勢の方がされている話を聞くんですね。だからフォークダンス1曲やっごまかしちゃったとかというのだったら、これは何のためにダンスをやったかという意味がわからなくなっちゃうんです。だから女性の教師もぜひ採用してほしいなというふうに思いました。

<発言者6に対する知事のコメント>

今御案内のように、例えば静岡県の場合ですと教育委員会というものがあります。そこで人事やっているんですね。私の方はその人事権は持っていません。教育委員会の委員の人事権は持っていますけれども、教育委員会の事務局、その6割が高校の先生です、県の場合は。そして残り3割5分は教育委員会の方で人事をとっている。残りの本当の5%、これが知事部局から行っているわけです。

ですから、教育委員会の人事というものをよく知った上で、かつまたダンスが取り入れ

られたと。実態としては必ずしもダンスを教えるのに適切な、そういう体育の先生の構成になっていないという中で、上から降ってきたのでやるというのではやっぱりまずいので、もともと、こういう言い方するとちょっととげが立つかもしれませんが、文科省のない時代がありました。

江戸時代は文科省ないですよ。寺小屋がありました。寺小屋だけで2万あったわけです。各藩は藩校をつくっていましたが、別にそれぞれの藩によって教えることは似ていましたけれども、違います。自分たちの子どもたち、あるいは自分たちの社会が力をつけるためには勉強しないといけないというのは共通ですから、学問あるいは教育は自分たちでできるんです。

文科省ができたのは、これは明治時代ですけれども、欧米の学問を入れなくちゃいけない。これは教えられる人がいないので、そして向こうの外国人を最初に高い高いお金、首相級のお金を払って、その人たちのものを翻訳しながら始めて、そして洋学、西洋の学問を教えるところということは、国家がやらなくちゃならなかった。それがずっと続いています。だけど、基本的に教育は地域のことは地域で教えることができるぐらいでなくちゃいけない。実情に合っていないことを押し付けられて、はい、わかりました。結果的にお茶を濁すということでは具合悪いし、教育委員会の中にも、今回の大津の問題で隠蔽体質が出てきました。

うちだって、この間まである県立高校でいじめがあったということを親御さんの手紙で初めて知りました。それは教育委員会の委員の先生にも入っていないのです。

そういうふうな体質のところ、上から何か来て、それで来たからそのとおりにやっていると、実態と本当のねらいと合っていないとなれば問題なので、しっかり発言者6さんのように、元中学校の体育の教師をされていて、その実情をよく通用されている方、こうした人たちの意見が上手に栄えるようにしながら、教育の自立ということもこれから本当に考えていかないと、地域の自立はおぼつかないとも思っています。重要な問題提起だったと思います。

#### <傍聴者1>

初めのうちはかなりいい広聴会だと思いましたがけれども、今のあれはおかしいですよ。6人言っている人がまた3回も質問受けるということはおかしくないですか。皆さんに聴くための広聴会じゃないのですか。一番初めに僕それを思いました。ねっ、結局皆さんの意見を聴いてもらうための集まりだと思うのですよ。そのことだったら、後で皆さん方

やればいい話ですよ。皆さんに聴いてもらうための僕は広聴会だと思うのです。

それはさておいて、川勝さんにはもう1期、2期やってもらいたいと思います。おべんちゃらじゃなくて、僕はオンブズマンという組織を受け継いでやってきました。余りにもすさまじい権力構造です。ここに『道路の権力』という東京の副知事の猪瀬さんの書いた本があります。これは静岡空港のつくり方のときと全く同じですよ。本当の権力構造で、1,000億でできるのが2,000億使いました。そして今回、民営化を逆にしているんですよ。これ逆ですよ、本当に。2,000億税金使ってますよ、それから今さら公営のものを民間でやるのが当たり前じゃないですか。そして赤字を少なくしていくと、これが本来の税金の使い方ではないかと思うのです。

発言者6さん初め、皆さんは孫のために僕らはやっていると思う。僕なんかでも、結局税金のない、借金のない世界にするために、僕はオンブズマンというのに入りました。ですから、今そこにふじのくにで飛行機が飛んでいる絵がありますけれども、もうつくっちゃったものですからね、これは今さらあそこで太陽パネルというわけにはいかないですよ。ハブ空港にするとか、いろんな形ではありますけれども、これからは説明責任がはっきりできる空港にしていてもらいたい。ですから私は今から民間を公営にするのではなくて、逆だと思っています。公営を民間としていかに赤字でない空港に持っていくかというのが、これからの静岡空港の持っていく方ではないかと思っています。

<傍聴者2>

今日広聴会を、どんな意見が飛び交うか、大変楽しみにして参りました。列席者の皆さんのことも無論参考になりました。しかし私は今一番知事にしっかりとお答えをいただきたいのは、原発問題ですね。これはどなたも今一番関心があることではないかと思っております。

そしてこの地元にもすぐそばに原発があります。その地元というのは、わずか4市町的首長がうんと言えれば許可になるような感じを今までは受けてきました。だけど実際にはその30キロ圏内でも安全ではありません。世界の基準は80キロまでが危険区域とされています。それなのにこの吉田町も焼津市も藤枝市も島田市も、何のきついお話、いいお話はありません。飴玉は転がってきませんでした。この間の去年のあの原発の事故、第2の福島が起きて、初めて目が覚めるのか、その辺のところをもう少しみんな一人一人が勉強してほしい。

と言いますと、私は私事ではありますが、30年前にドイツの方へ機会があつて視察に行

ったことがあります。それでいかに原発が危ないものか。確かに便利性は十分わかります。必要性もわかります。しかし安心ですよ、安心ですよ、浜岡にも私は何度も見学に行っていて聞いていますと安心ですと。だから安心という言葉は使いなさんなどよく言ったのです。それが現実にああいうふうに起きてしまったのです。

もう起きてしまって、今現状はどうなっているかということを、ここにいらっしゃる皆さん方、自分の目で確かめた人が何人おるでしょうか。あれを見れば、ああこれはだめだって、本当に心からそう思います。それで幸いにトップの知事は、まず原発はだめだと、今の状態ではだめだということを再々おっしゃられております。ですから今後もその点については県民の財産と命を守る、これが第一でございますから、どうぞ責務を果たすように、しっかりやっていただきたいと思います。

#### <傍聴者3>

私はこの静岡県のパンフレットの中の数値目標の2番目に「ふじのくにの徳のある人材の育成」、ここで「思いやりのある行動ができる有徳の人」、この思いやりということで知事さんとちょっとお話ししたい。

私たちは静岡県人でありまして、先ほどから言われているように、日本一恵まれた環境です。ですから少しでもこれを、環境を悪くするという事は望むものではありません。けれども、静岡県人であると同時に日本人でもあります。その日本の国の中で東北の福島県の人たちが大震災でがれきをもてあまして困っているといったときに、その始末を全国に求めた。それをだれも手を挙げる人がいなかった。それをしばらくたって島田の人たちが手を挙げて引き受けてくれました。引き受けて、続くかと思ったら続きません。

それがこの静岡県の中の一地区で起こって、静岡県の知事の川勝さんがどう思われたか、一方では福島県の知事がどう思ってそれを自分のところのごみをもてあまして、それをほかで何とかという声を挙げるなんてよほどのことです。そういう環境の中でどう扱うのが本当に人間としての生き方であるか。これがその徳育に言われている思いやりの精神に根差すであろうと。そういったことがこの静岡県で徳育に大きく挙げられて、これに書かれておられます。これをぜひ一層生かしていただきたいというのが私の声でございます。

この間、その島田市でごみを受け入れて、それを燃やしにかかったときにコンクリートの塊が出てきました。それでまた問題になりました。私はごみの中にコンクリートがあって何の問題になるかと思ったら大問題です。みんなげんなりしていましたね。そのときに静岡県の責任者が何と言われるかと思ったら、一声もありませんでした。

そういうことについて静岡県の皆さん、あれはあのごみの中ではこれでこういうわけ  
こういう形で受け入れて、それを受け入れてくれた島田市の人たちも、その態度を徳育に  
照らして、奨励をして、皆さん本当に問題があるなら、それなりに対処はありますと。だ  
けれども、困っている人たちがあって、これで実際にそれほどのことはないのだというこ  
ともわかりました。一層そういうことで皆さん静岡県の日本一の環境を私は汚したいとは思  
わないが、同じ日本の中でこれだけ一方では困っているところがあるのだったら、少し  
でも自分の立場を汚してでも、一緒になって安心して暮らしていける明日を迎えようじゃ  
ないかという声を挙げてほしい。それが私は静岡県民としての私の声です。

だれにも強要しませんけれども、私はそう思って、今日知事さんと向かうものですから、  
ぜひお話ししたいと思ったわけでございます。この徳育に挙がっているこれ、これだけ重  
要視しているのですから、ぜひ生かしていただきたい。みんなして、私たちはそれ  
ぞれ自分たちの環境を悪くしたいなんて思いません。でもね、自分の立場が少しは悪くな  
ってもね、困っている人がいるのだったら、その人たちを少しでもよくしてやろうじゃな  
いかという、そうやってお互いによりよい日本の将来を目指そうじゃないですか。私はそ  
ういうつもりで立ち上がってお話ししているわけでございます。よろしくをお願いします。

#### <傍聴者4>

意見が言えるとは思っていなかったもので、アンケート用紙に「意見がありましたら御自  
由に御記入ください」と書いてありますので、書いたものをとりあえず読みます。

この地方の最大の関心事は、地震、津波、防災、天災対策です。当然原発もあるからで  
す。自分の命は自分で守る、当たり前のことをどうするのか知らない人、要するに日々の  
生活やら何やらに大変なときですから、なかなかそんなことには構ってられないという意  
味で、知らない人が多い。これを語る人がいるのかなと、今日だれかが語って、こちら側  
で語ってくれる人もいたので、一つ安心はしましたが。

次に、富国有徳って、よく静岡県、前の知事さんから言われている標語がありましたね。  
県民一人当たりの所得は、多分近年低下していると思います。富国、所得を向上すること  
は、すべての業種で価値を生むことだと思います。1983年、ケージェイオニールという人  
が世界的知見から利益を生む方法とは、一つ、最大の効率を上げる、二つ、人に優しい、  
三つ、地球環境に優しい、この3点を自分の業態につくり込めば、要するに利益を生みま  
す。要するに儲かりますと言っているわけです。

もう一つ、また別の言い方をしている人もおります。またミニマム生産方式、小さな労



力・投資で大きな効率を上げ、省エネに資する方法が、これは2006年に産業技術総合研究所で言い始めたことです。ところがその後2009年2月25日の静岡新聞の社説で、これをコメントしていますということで、ところがそのことを知っている人が、気がついている人が、私ありとあらゆるところへ人を訪ねて、この話をするわけですけども、大学の先生だろうと何だろうと、ましてや大学でもってMOT、要するにマネジメント・オブ・テクノロジーということを教えている先生方すら、これを知らない。

ともかく、ということで、私はこういうことを言ったからお金くださいとか、コンサルタント業をやっているわけでもないし、それからもう一つ、私言いつ放しじゃなくて、津波に対して自分の命は自分で守るというための要するに津波ジャケットというのを開発しています。それは1リッターのペットボトルを前に二つ、背中に二つ背負うわけです。これは去年震災があつて、皆さん海底に1万何千人引きずり込まれていて、今でもまだ眠ったままですよ。

だからあんなことが、要するに東南海地震でこの海岸沿いであつたらたまらないということで、まず自分でサンプルをつくりました。そしてそれを県の防災センター、焼津市の防災センター等へ持って行って、皆さんこれを参考にしてつくって見たらどうですかと。それを着用して、大の70キロぐらいの男が海の中でこうやって手を挙げると、ここから上が浮くわけです。ということで、その写真も持ってきましたけれども、あんまり興味ないですよ。それからまた友達にそれを持って回って見せました。だけど、いいな、いいな、早くつくってくれということで、自分でつくろうとしないんですよ。その程度の危機感しか持ってなかったのかもしれないけれども。ということで、またこのミニマム生産方式ですけども、私言いつ放しじゃなくて、自分でこれを実践しています。

私は実は鉄鋼場の親父です。鉄鋼場は55年の経験があります。ということで、私は中国がバブル弾けた当時ですから、20年ちょっと前に日本の賃金格差をすると、日本では…。

(「ちょっと長過ぎませんか」) はい、ではやめます。

ともかく要は効率よく生産すれば、10倍、15倍の生産を上げれば、中国になんか負けないのです。東南アジアに負けないで、何も物づくりを全部向こうへ持っていかれちゃうようなことはないはずですよ。だから皆さん、やっぱり自分の力でそういうことを成し遂げてもらいたい。そんなことを言って、県知事さん怒るのかもしれないけれども、また日本のシンクタンクの人たちが怒るのかもしれないけれども、所得を実際に上げる方法なんていうのは、やっぱり現場の人、自分の仕事でもって、自分の業態にあてはめて、自分がやるしかないということを私言いたいです。

<傍聴者1、傍聴者2、傍聴者3、傍聴者4に対する知事のコメント>

もう2時間が過ぎまして、この広聴会というのは今までこういうやり方でやってきたわけです。町の方々の代表に来ていただいてお話を承るというスタイル、それと同時にフロアからもいただくということでやってまいりまして、しかもこれは準備していません。私との関係では、今日初めて会って、そしてお話を聞くということで、大変新鮮でございました。

ただやっぱり、ここに150名ぐらいいらっしゃいますけれども、皆さん一人一人御意見持っていらして、374万人いらっしゃるの、私も現場で話を聞くということが筋だということで、ドアを開けっ放しにして、かつては開かずの扉だったのですが、開けっ放しです。もう今年の5月までで公式の出張が1,000回を超えています。県内の出張が900回弱です。ですから1年間に300回はあちこち行ってお話を聞いていると。それでも不十分であるということで、こういう公式にしっかりとまとめた御意見を聞く時間を、いわゆる広聴会として持っているわけです。やっぱりそれでもいっぱい言いたいことがあるということでした。今日私はこの6人の方々の意見を大変貴重なものとして傾聴いたしました。

それから傍聴者1さんから空港のことを言っていただきました。多大の税金を注ぎ込んだ。これはもう元に戻せないの、これを発展させていくということで、いろいろ発展の可能性もあります。やり方もあります。しかし、あそこに防災拠点ができますと人が来ますから、したがってお金が動きます。あそこに駅が、リニア新幹線ができたときにできるというもう既に制度的なお約束をいただいております。そういう準備もしております。そうすると一気にこの地域にまちづくりから何から変わってきますので、空港ティーガーデンスイッチ構想として町の方々の意見をお聞きしながらやっております。空港の経営については、今お任せしているところからの御要望も大事にしながらいかねないので、基本的には、最終的には民間に任せるのが筋なのですが、いましばらくお時間をくださいませ。

それから傍聴者2さんから原発の問題がございました。私は原発が止まっても、永久停止、あるいは廃炉にしても、そこに1万発近い使用済み核燃料があるでしょう。あれがある以上、危険ですよ。あれがもし冷却が失敗したらどうなります？だんだん、だんだんと崩壊熱出していますから水が蒸発します。そして温度が上がっていきます。压力容器の中で出られませんから、ものすごく温度が上がる。900度ぐらいになりますと、燃料体、使用済みの核燃料ですよ、被膜があるのです。これは物質でジルコニウムというのでつくられている。このジルコニウムが周りのH<sub>2</sub>OのO、酸素と結び付くのです。酸化ジルコニ

ウムになると $H_2$ 、つまりHというのは水素ですが、HとOが分かるとHが分離します。どうなります？危ないですよ。水素爆発起こしたでしょう、向こうが。だから止まっているからって安全じゃないのですよ。だから永久廃炉、あるいは永久停止にしろと言って、それでもう終わりだと思っていたらだめなわけです。

それから一番安全であることを私が心配しているのは、もちろん御前崎の人、そこで3,000人働いているのですから。彼らのことも考えないといけない。だからどこかの首長さんのように敵だ、出ていけとか、何かそこらのガンみたいに言われている。とんでもない話だと思う。電力を供給してくれているじゃありませんか。

あそこに360万キロワットの送電線があるんですよ。この上にもものすごい送電線、高圧線が走るとなったら、町民の人はノーと言うでしょう。それが既にあるのです。それが今送電しないで受電しているのです。1.6キロの防潮堤つくるのと、2メートルの幅の防潮堤ですよ、それでどうして太陽パネル動かないのだと。100ヘクタールもあるなら、どうしてそこに臨時の発電機だけを置くということじゃなくて、ほかのことを考えないのかというようにも言っているわけです。

私はあそこをどうしたら安全にできるかということを考えて、あそこを敵で出ていけとか、止めろとかということでも済む話じゃないということも申し上げておまして、原発につきましては安全が第一だと。原発の安全ということは、要するに我々の生命、身体、財産、これを守る。一番安全を守って差し上げたいのは、あそこで働いている地元の人のことです、その人たちにも家族がいますから。

だからそういう観点でこの安全問題は最優先。議会における、あるいは県庁における、これまでは経済発展から、経済の話からされていた。私のすべての議事を見てくださいませ。全部危機管理が最初です。それがあってのものなのです。そういうにしておりますから、そういうドイツまで行かれて、いろいろ見識を持たれている方が周りにいるということは大変心強いということで、私も日々勉強して、少々のあるだと中部電力の人たちに負けませんから。それぐらいすることを通して、信頼関係を通し、相手はそのプルトニウムという核兵器の材料になるものを処理するまで危ないですよ、我々の生活は。徹底的にやります。

そういうことと同時に、あそこに資産がありますので、あそこにどうしたらいいか。何も $CO_2$ 出すかもしれないけれども、原発の値段が高いということ。安いと言っていたでしょう。高いということをみんなの前で、委員会で明らかにさせたのですから、新聞社、テレビ局全部入れたその前で、実は原発が安くないという、その値段も出ているのです。

CO<sub>2</sub>はどうか。だからこのCO<sub>2</sub>について、火力発電じゃどうかということが問題ですが、石炭はモンゴルから全部くれる約束を向こうの大臣がしてくれているのです。それはともかく、そういうことをして、火力発電所だって 100 万キロワットできるのですから、1 基ですよ。しかも原発より安く。いろんな方法を考えながら、我々のこういう電気と、それから安全と両立させると。しかし安全が第一ということです。

それから傍聴者 3 さんの方から、これね、実は島田も含めてですけれども、1 回全国で皆「がれきを処理してください」と言ったら、東京都以外、すべてノーと言ったんです、実は。全部ノーと言ったのです。静岡の 35 市町、全部ノーと言った、昨年 10 月の初めです。それで、それは中には福島に近いがれき来ると、やはり子どものことが心配ですから、赤ちゃんのことが心配だから、だれでもノーと言うのは当たり前です。そこで我々は福島県ではなくて岩手県の一番北の山田町と大槌町、これは静岡県が昨年の 3 月からコミットしたところです。そここのところのごみを何とかと言ったら、島田が手を挙げてくださり、そして試験焼却から本焼却に入りつつあると。

実は島田だけではありません。富士も、それから裾野も、それから静岡市も、それから浜松市も試験焼却をしたところと、これからするところ、本焼却に入るところもありますから、静岡県の市町は捨てたもんじゃないですよ。やっているのです。原理主義的に危ないということ言うよりも、危なくないかどうかということをチェックしてやっていますから。ですから、これは大丈夫です。島田市だけではありません。島田市が、一番最初にやるというのは一番難しい、それをなされた。これは大変立派なこと。しかし後に続いているところはあります。

それからコンクリートが入っていた。これはやっぱり向こうのミスです。すぐに抗議をしました。どうしてそうなったのか、理由があるはず。それは理由があったのです。縁石のところでごみが置いてあって、それがたまたま入ったということで、今はそうしないようにしています。ですから、恐らく山田町と大槌町については、大槌町というのは、町長さんも流されたところ。山田町は町長さんの家まで流されたところ。大槌町は火事まで起こったところ。その現場を見れば、もう全部、要するに家財道具から家からがれきになった。それは自分たちで処理できるようなものじゃないので、我々があそこについては徹底的にやり抜きますから、燃やせるものについて、だから静岡県はその点は決して島田だけじゃないと。発言者 3 さんの思いは共有されていますから、どうぞ御安心ください。だってあなた焼津市民じゃないですか。同じですよ。

それから最後の方、所得を上げなくちゃいけません、働くことができない人がいます。

その人が平成 19 年には 5 万 5000 人いたんですよ。それが平成 22 年、いろんなことがあり  
ました。リーマンショックだとか聞かれたことがあるでしょう。8 万 2,000 人に増えたの  
ですよ。就職口がないという人がいらっしやるんです。あるいはクビ切られた人がいらっ  
しやる。ほぼ 3 万人増えたのですね。だから元に戻そうと。

失業者って必ずいるのです、病気になったとか、あるいは転職したいとか、必ずいらっ  
しやるんです。この 3 万人の増えた失業者の分を減らすということで、もうどんなことが  
あっても仕事をつくって差し上げる。だから所得をふやす前に、所得が得られる状況をつ  
くらないといけないということで、それで実は今、これは 3 カ月に 1 回、失業者数の合計  
が出るのです。5 月で 6 万 8,000 まで下げましたよ。8 万 2,000 人だったのが 6 万 8000、  
1 万 4000 減ったんです。ですから立派な会社をされているということでありますから、一  
人でも多く、特に学生、出たばかりの社会人になったような子を一人でもということ  
をしていただきたい。

それから先ほどのライフジャケットのような、あれは、津波は、もう恐れれば、実は水  
というよりも船であったり、家であったり、がれきであったり、もうそれは水の上で浮く  
かどうかポイントじゃありません。地震だと、下敷きになって足が折れたとか、しかし  
命は何とか助かると。しかし津波は助かった人はいますけど、これは例外中の例外で、全  
部持っていけません。そういう少々のこと助かるというふうなものではないと。むしろ今  
おっしゃったやつは、水泳するときか何かによろしいのじゃないかと。いろいろ使い方は  
あると思う。だからそれは津波というふうに一気に結びつけなくても、そのアイデアは相  
当生かせるということじゃないかと思えますね。

そんなことで話すと長くなります。今日はもう既に 2 時間 15 分たちましたので、とりあ  
えずこの広聴会のやり方も、なるほどもう少しフロアーというふうに言いますが、そこか  
らの意見を、これも一人 3 分とか区切って、川勝の意見はやめろと、やめろと言えば私も  
やめるのですけれども、言いつ放しにしているから、皆さん方の時間を奪ったことは、大  
変申しわけなく存じますけれども、今日は本当に思い切って言ってお返しにいただきまして勉強に  
なりました。どうもありがとうございました。